

## 小田原保健師へインタビュー

男女がともに輝く男女共同参画社会実現のためにあらゆる分野での取り組みが行なわれています。これまで男性あるいは女性の職場と思われていた職場も少しずつ変わってきています。今回はそうした職域拡大の事例として、15年度に大分市役所で初めて男性保健師として採用された小田原純平さんにお話を伺いました。



保健師になろうと思ったのは？

地元である大分の医療現場で働きたいと考えていたので、大分大学看護学科に進学しました。その時に保健師の方と話す機会があり、病院の中だけではなく、地域には生活習慣や心の問題など、さまざまな健康問題を抱えて生活している人がたくさんいらっしゃる事を知りました。その様な方々に健康指導やいろいろな社会資源のサービスを紹介していくことで、病気を予防し医療費を減らすことにつながったり、地域の中でその人らしい生活をおくることができるよう支援していける保健師の仕事に魅力を感じ、保健師になることを決意しました。

保健師の仕事は、意外によく知られていないように思いますが……。

いろいろあるのですが、私は今、精神保健福祉業務の係で心の問題に関する相談を受けたら、必要に応じて家庭訪問したり、精神障害者を対象としたデ

イケア事業などを行っています。

大分市そして県下でも初の男性保健師となられたわけですが、周囲の人の反応はどうでしたか？ また小田原さん自身は戸惑いなどはありませんでしたか？

家族は「自分のしたいことをすればいい」と言ってくれていましたし、先輩の保健師の方たちもスムーズに受け入れてくれました。「すぐ辞めるかと思った」と言う人もいましたが……。(笑) 大分市保健所の保健師のなかでは男性一人で初めは不安でした。でも「男性だから」ということで特別困ったということはありませんでした。逆に珍しいので市民の皆さんに名前を覚えていただいたり、

男性の方から「同性なので相談しやすい」と言っていたこともありました。

今後の抱負をお聞かせください？

自分が関わる事でその人の生活がよりよくなっていくのを見ることがうれしいですし、本当にやりがいのある仕事だと思っています。今後は母子保健や老人保

健の関係にも携わり、幅広く対応できる保健師になっていきたいです。

取材を終えて

人がゆとりを持って豊かにそして安心して生き生きと暮らすためには、老若男女を問わず誰もが生涯にわたって健康であることが重要です。保健師の仕事にプライドと理想を持ち「地域の人々のよりよい健康な生活のために」と真摯に取り組んでいる小田原さん。その姿はとてすがすがしく、取材をした私たちは感動さえ覚えました。

